

江戸川区 区民らとウェブ会議開催 新しい会議の在り方模索

江戸川区は4日、区民見を募集するにとどまらずに構成する新庁舎建設に関する策定委員会をオンライン上で実施した。新型コロナウイルスへの感染リスクを下げることも、同委員会に限らず、今後の区民や学識経験者などの新たな会議の在り方としても模索する。同策定委では新型コロナウイルスの影響で対面での審議が難しくなり、3月には書面上で委員会を開催したが、意見をサボートする区職員も

4日の会議では、公募区民や区議、学識経験者など委員計19人が、自宅や区有施設、区役所内の委員会室などから参加した。委員には区が事前にタブレット端末を貸与して、操作方法に関する資料を配布し、当日は操作をサボートする区職員も

配置した。

会議は法政大学大学院教授の上山肇委員長が司会を務め、一人ずつ指名する形で進行。委員が発言する際は、画面上の通話アイコンをクリックする必要があり、中には押し忘れて発言が伝わらな

一幕もあったが、職員のアドバイスにより次第にオンライン会議に慣れていったという。また、当初懸念していた回線の不具合などはないが、一部の委員の端末の充電が切れそうになったため、区職員が急きょ端末を充電する場面もあった。

会議終了後、上山委員長は「一人ひとりに意見をもらえるように気をつけた。一堂に集まる会議よりも、各委員の意見を吸い上げることができたのでは」と感想を述べた。一方で、タブレット端末の画面に映る人数に限られ、「全員が集まる会議のやり方が変わるかもしれない。いろいろな部署で実施できるよう、まずはこの委員会で引き続き試行していきたい」と話した。

区新庁舎建設推進担当

オンライン会議に参加する区職員
4日、江戸川区

